



第77号

歴史と暮らしの赤れんが博物館



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS



広島市民球場・最後のナイター

写真は2008年9月27日、プロ野球公式戦最終ナイターを迎えた広島市民球場です。市民球場は、1949年に誕生した当初から経営難にあえいでいた広島カープを救う切り札としてその建設が切望されました。特に当時すでに主流であったナイター設備を持つことは、球団・市民ともに悲願でした。新球場は当たり前のようにナイター球場と呼ばれ、その歴史が綴られはじめました。

1957年7月22日の竣工式の夜、渡辺忠雄広島市長は誇らしげに点灯スイッチを入れ、被爆の象徴原爆ドームのすぐ側に、復興のシンボル、当時日本一の明るさとまで言われた球場が輝きました。以来この明確なコントラストは広島の代表的な景観の一つとなったといえるでしょう。最後のナイターを終え、大歓声とともにナイター照明がドームを浮かび上がらせることはもうありません。広島戦後史の一つの区切りが訪れたのかもしれない。（大室 謙二）

平成20年度後半(10月〜3月)に実施した事業

企画展

広島市民球場の記憶

【会期】1月24日(土)〜3月22日(日)

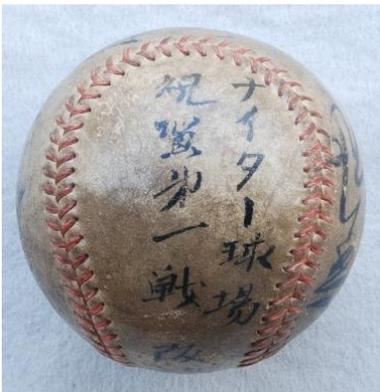
一九五七年(昭和三十二)、プロ野球球団カープの本拠として開設された広島市民球場は、新「広島市民球場」のオープンとともに二〇〇八年度、その役割を終えます。今回の展示はその半世紀あまりの歴史を記憶にとどめていただきたく企画しました。郷土資料館では昨年度、市民球場の五〇周年を記念して「広島市民球場の五〇年〜人々の感動とともに」を開催し好評を得ました。そのと



2008年9月28日プロ野球公式戦での最終試合を終えた市民球場

きはあくまで球場そのものの歴史に焦点を置き、カープやファンのことについては、それほど重点を置かなかったのですが、やはり、来館され

る方は球場よりもカープのほうに関心をお持ちのようで、関係資料をもっと見たいという声をたくさんいただきました。そこで今回は、前回の展示を下敷きとしながらも、カープや応援団の方々の資料を大幅に充実させ、点数にして前回の倍以上、内容的にも山本浩二選手や大野豊投手、さらには現役の応援団の方々などの所蔵品など貴重な資料を展示することができました。展示は、①一九五〇年代の広島②広島カープの誕生と広島市民球場の完成③感動とともに歩んだ五十一年④市民球場ガイドツアーという構成で、①では市民球場が完成した時期である一九五〇年代の広島街の様子を概観し、広島街の復興の中で市民球場建設の位置づけを探りました。②では一九四九年にカープが誕生した経緯や市民球場ができるまでの球団のあゆみをたどりながら、市民球場の建設



1957年7月24日市民球場初ナイターウィニングボール 個人蔵

が計画されていく過程を、さらに「成長する市民球場」として、現在に至るまで、改修などで球場が変化していく様子を紹介しました。③では球場完成後のカープの歴史を、特に一九七五年(昭和五〇)のリーグ初優勝から八〇年代のいわゆるカープ黄金時代を中心に取り上げるとともに、アマチュア野球のほか、さまざまなイベントなど、プロ野球以外の舞台として利用されてきた事例を紹介しました。④では現在の球場をバックヤードを中心に紹介しました。

また、この時期は「市民球場の終わり」であると同時に「新広島市民球場のはじまり」であることから、「定点写真で見ると新広島市民球場建設の記録」を同時開催しました。郷土資料館では二〇〇七年十一月の着工以来約一年半にわたって毎週定点で新球場の建設現場の撮影を行なってきました。その成果を初めてこの場で全面公開したものです。これらの写真も含め、今回の展示では写真資料三五〇点、実物資料一三〇点を紹介することができました。新球場の定点写真と、ごくわずかの資料をのぞいて、ほとんどが外部からの提供です。資料提供者の方々、さまざまな助言やご指導をいただいた方々に厚くお礼申し上げます。

【企画展関連事業】

期間中の毎日曜日 展示ガイドツアー
2/15 阿南元監督と語ろう

(大室 謙二)



完成間近の新広島市民球場 2009年3月4日撮影

企画展写真集

広島市民球場の記憶

A4版 16頁 1冊 200円

【主な内容】

1950年代の広島/広島カープの誕生と広島市民球場の完成/感動とともに歩んだ51年 など

お求めは当館、または
広島市公文書館(243-2583)で



企画展

『ごんぎつね』が語る昔の暮らし

【会期】9月6日(土)～1月12日(日)

平成十三年度にはじまった『ごんぎつね』の展示も、資料館の秋の企画展として定着してきた感があります。期間中多くの方にご来場いただき、童話『ごんぎつね』の魅力にふれていただきました。

展示室入口には作者である新美南吉についての紹介コーナーを設けました。南吉が雑誌『赤い鳥』に投稿した『権狐』や、南吉のふるさとであり物語の舞台となった愛知県半田市岩滑の町なみを紹介しました。その風景から、数百年前に野原を駆けまわっていたで



あろう「ごんぎつね」の姿に思いをめぐらせていただけたのではないでしょうか。

展示室には、物語の様々な場面を再現しながら、農村の人々のくらしぶりを収蔵資料や写真で展示しました。『ごんぎつね』が小学校四年生の国語教科書に掲載されていることもあり、期間中多くの小学生が見学に来られました。囲炉裏を中心とした居間を再現したコーナーでは、社会科で学習した「古い道具と昔のくらし」との関連もあつて、熱心にメモをとる姿が多く見られました。物語の最後の場面で登場する火縄銃についてはたくさん質問をいただき、関心の高さがうかがえました。

また、企画展に関連する教室も実施しました。十月十一日(土)には「ごんの人形づくり」を行い、フェルトを使ってかわいらしいごんぎつねの人形を作りました。十月十二日(日)には「ごんまんじゅうを作ろう」を行い、ごんぎつねの顔の形をした蒸しまんじゅうを作りました。どちらの教室も多



ごんぎつねの人形



ごんぎつねの蒸しまんじゅう

くの方に楽しく参加していただきました。

十月十三日(祝)には「糸紡ぎ体験」を行いました。綿繰り機で綿の実と種を分け、糸車を使って糸を紡ぎました。同時に高機を使った機織りも体験していただきました。

毎週日曜日には約二十分間の展示ガイドを行いました。説明を聞きながら熱心にメモをとられたり、説明が終わったあとで質問をされる方もおられました。家族連れで来館され、昔の道具について語り合う姿もあちらこちらでみられました。

このように、期間中多くの方に来館いただき、今年度の「ごんぎつね」の企画展は終了しました。小学生を引率



されて来られた先生方からは、「ごんぎつねの展示を子どもたちに見せるために来ました」という言葉をたくさんいただきました。このような期待にお応えできるよう、今後さらに展示内容を充実させ、学習の場としての役割を果たせていけたらと思います。

(牛黄著 豊)

平成21年度前半の企画展

企画展

広島県の遺跡を掘る

【会期】4月11日(土)～7月5日(日)

広島市内の発掘調査の成果をおして、広島市の古代に迫る！ 小学校6年生ではじめて古代の日本にふれる子どもたちも必見！ 今回は古代人の骨もみなさんをお待ちします。

企画展

日本の夏 夏休みの思い出

【会期】7月18日(土)～8月30日(日)

暑い、暑い日本の夏。昔の人々はどうのようにこの暑い夏をのりきつていたのでしょうか？ 暮らしの中に見られる暑さをしのぐ工夫や道具を紹介しましょう。夏の風物詩・お化け屋敷も同時開催！

企画展

ごんぎつねが語る昔のくらし

【会期】9月5日(土)～2月7日(日)

教室事業等

教室

伝統的な物づくりや昔ながらの遊びを体験する教室。幼児対象のものから大人も参加できるものまで多彩な事業を行いました。土曜日を中心に、今年度は日曜日にも多く実施しました。

- 10 / 11 ごんの人形作り
- 10 / 12 ごんまんじゅうを作ろう
- 10 / 13 糸紡ぎ体験
- 11 / 23 お抹茶体験と芋菓子づくり
- 11 / 29 昔のスイーツくず菓子作り
- 12 / 6 いろんなコマで遊ぼう
- 12 / 13・14 ワラのクリスマスリースもちつき体験
- 12 / 21 磯の香り！ノリすき体験
- 2 / 14 広島発祥！バウムクーヘン作り



カイコのまゆから引き出した糸を巻き取りました。

- 2 / 21 あぶり出しアート
- 2 / 28 折染めのひな人形
- 3 / 1 まゆ玉でつりびな作り
- 3 / 7 わらぞうり作り
- 3 / 14 絹糸紡ぎ体験

大人向け講座

主に平日の、十八歳以上を対象とした講座です。大人ならではの手応えあるプログラムを用意しました。

- 10 / 17 和とじ本を作る
- 1 / 16 江戸時代のカキ船料理再現
- (宇品公民館との共催事業)
- 広島発祥！バウムクーヘン
- 2 / 13 細工かまぼこ作り体験
- 2 / 22

駄菓子づくり広場

十一月三日に文化の日イベント「駄菓子づくり広場」を行いました。郷土資料館では、戦後の駄菓子文化や食文化の調査を行い、その成果を展示・教室事業などに活用しています。特に駄菓子関連の事業は大人にも子どもにも人気が高く、当館の代表的な事業です。

「カルメラ焼き」「綿菓子」「水あめ」などはなじみ深い駄菓子ですが、それらを体験したことのある世代は少なくなっています。イベントでは駄菓子を食するだけでなく、自分で製作することにより、食文化やそれらの駄菓子の



ボランティアさんの指導でカルメラ焼きに挑戦!!

歴史などを知ってもらうことも目的としています。当日参加していただくボランティアさんとは、事前に研修を行い、作り方だけではなく、その歴史なども話し合いました。

カルメラを焼きながら、昔のお菓子について対面で子供たちと話すことで、コミュニケーションをとおり、遊びながら学ぶことの楽しさを知っていただき、伝えることができるのではないかと考えています。

当日は大勢の人でにぎわい、昼食時間もほとんどない中、皆さんは疲れもみせず、頑張ってくださいました。ありがとうございました。ボランティアは当館のほかにも広島城・(財)広島市文化財団文化財課でも活動し、歴史系の三館合同となっています。興味のあ

る方は声をかけてみてください。

(小林 奈緒美)

その他の事業・館外活動

- 10 / 19 二葉公民館で区民アカデミー講座「私たちの暮らしと害虫の暮らし」
- 10 / 25 マリンバコンサート(安芸区民文化センターとの共催)
- 広島県立歴史民俗資料館でふじきの丘体験教室
- 「藍染に挑戦しよう」
- 11 / 1 広島市植物公園・秋のグリーンフェア2008で「のぼり人形づくり」(文化財課と出展)
- 11 / 22 愛育園で水あめ体験ブース
- 11 / 20 縮景園・もみじ祭り
- 「体験コーナー・紋切り型」
- 12 / 22 広島市立大学で博物館学講座「博物館資料論」
- 2 / 7 ふれあい広場 新球場ようこそ劇場の市民球場写真パネル協力
- 2 / 24 あやめ幼稚園で「折り染めのおひな様づくり」
- 3 / 20 文化財団ボランティアフェスティバル
- 3 / 21 Thanks 51プロジェクト
- 3 / 22 Home 大学生のみつめた広島市民球場」上映(計5回)

職場体験学習

トピックス



教室で作る芋菓子を試作中です。

本年度は、宇品中学校・国泰寺中学校の二校から、職場体験実習生を受け入れました。職場体験学習のねらいは、これから社会に踏み出していく中学生に、学ぶことの意義や働くことの意味を理解し、主体的に進路を選択決定する態度や意志、意欲などを培ってもらうことを目標としています。当館としても、次世代を担う子どもたちを社会全体で育成するという観点に立ち、学校の取組やその活動を積極的に支援・協力するのはもちろん、博物館という施設でどんな仕事をしているのかについて知ってもらうよい機会と考えています。

今回の実習では、社会見学で小学校の来館が多い時期ということもあり、小学生に同行して体験学習を補助する仕事を中心にお願いしました。昔の暮

らしの一端を実際に体験する学習は、ほとんどの学校が展示説明とともに希望されるものです。

宇品中学校の三人が実習に入った十一月十日から十一日の三日間は三校の来館があり、短期間のうちに自分たちにとっても初めての内容を教わりながら補助するあわただしいものでした。しかも学校ごとに体験の希望も異なっていましたので、石臼でのきな粉挽き、火起こし体験、機織り、天秤棒担ぎなど盛りだくさんの内容に携わってもらうことになりました。その他には、同じ月に予定されていた教室「お抹茶体験と芋菓子づくり」の芋菓子試作・試食にも協力してもらいました。

十一月十八日から二十日の三日間来館した国泰寺中学校の四人には、学校見学対応の補助だけでなく、縮景園もみじ祭りでの出張事業に同行してもらうことになりました。これは、「紋切遊び」という江戸時代の切紙体験で、生徒たちには実演とお客様への説明を直接してもらいました。事前に練習やサンプルの作成もして万全の態勢で臨んでくれたのですが、冷え込み厳しく人が少ないのが残念でした。しかし、寒さをこらえ作り方を丁寧に説明したのでお客様は喜んでくださいました。いづれも、博物館の仕事の様々な面を体験してもらえる機会になったと思います。(前野やよい)

歴史系四施設ジョイントスタンプラリー

平成十七年度からスタートし、今年度で四回目となる「歴史系四施設ジョイントスタンプラリー」が、三月一日に今年度の幕を閉じました。広島城、頼山陽史料資料館、広島県縮景園、当館の以上四施設が連携し、スタンプラリーをすることで、参加者に施設の存在を知ってもらい、新たな発見をしてみらおうと企画したもので、毎年度、担当者会議を行ない、少しずつ内容を変え、イベント参加を呼びかけています。

今年度は、夏から秋、秋から冬の前後期二回に分け、スタンプラリー賞品もそのつど変えて、リピーターの方も再挑戦できる内容としました。

当館の場合で言うと、前期は、特別展「水木しげる妖怪道五十三次」の最中で、夏休みということもあり、子どもを中心とした家族連れの方の参加が多く、後期は企画展「ごんぎつねが語る昔のくらし」と「広島市民球場の記憶」の期間中で、家族連れ以上に、友人、個人の方の参加者が目立ちました。

そしてスタンプラリーで巡った最後の施設で、スタンプを押した用紙を受付に渡す際、各施設先着二十五名に、参加賞をプレゼントしました。当館は、

「なつかしのおもちやくじ」と題し、駄菓子屋のくじを引いてもらい、出た番号のおもちやくじと、おまけに紙風船かシャボン玉を参加賞としました。また各施設の特別賞としては、抽選で八名にオリジナル賞品を差し上げました。当館は、郷土賞として前期は「広島偉人図録セット」、後期は「地場もん図録セット」を当選者に送付しました。参加者の意欲向上と共に四施設の入館者増にもつながり、意義あるイベントとなりました。(山縣紀子)



前期・後期のスタンプラリー用紙



体験コーナーのはたおり機

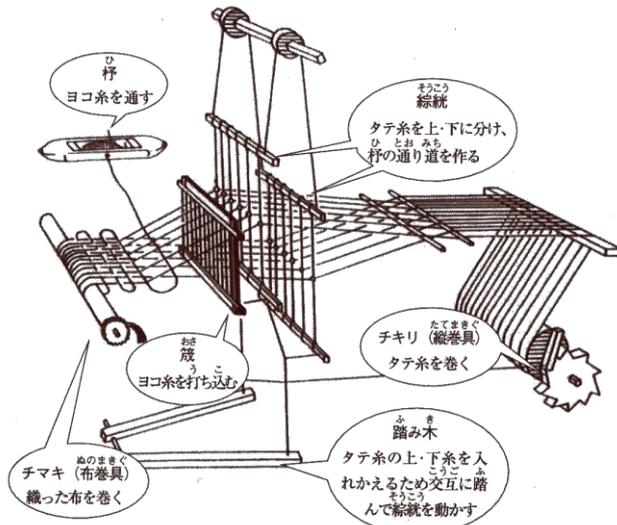
郷土資料館には、開館当初より体験可能なはたおり機があります。これは「高機」という機台が高く、腰をかけた織るはたおり機を復元したもので、来館者はどなたでも機を織る体験ができます。しかし実際の着物の生地を用いる糸は大変細く、初心者では、糸が絡まり切れやすいので、少々太い木綿糸を用いて、タテ糸の長さ約十五メートル、幅約三十九メートルの厚みのある布を一年かけてゆっくりと織ってもらっています。

では一年経つとどうなるのでしょうか。出来上がった布を外し、再び同じサイズで、はたおり機にタテ糸をかける「整経」という作業を行います。

糸から布へ

毎年恒例「はたおり機」の整経作業を紹介いたします

整経には「糸染め」「糸かけ」の複雑な工程があり、専門の方をお願いをしています。織り方は、タテ糸とヨコ糸を一本ずつ交差させて織る最も単純な「平織り」ですが、毎年異なる織り柄にしているのです。違った色合いになります。タテ糸は織り柄に合わせて色の本数を決め染色されます。今年度は糸を八色に染め、予定の織り柄通りにタテ糸を配色していきました。そのタテ糸を、糸の順番がずれないように巻いてはたおり機に取り付け、上糸と下糸に分けながら部品に一本ずつ糸を通し



たかはた高機はただいのしくみ (これは機台をのぞいた図です)



二枚の「綜統」にタテ糸を通していく



配色され「チキリ」に巻いたタテ糸

ていきます。大変細かく時間のかかる作業です。こうして通し終えたタテ糸に、ヨコ糸を通して見本織りをしてもらうと、整経の完成です。出来上がった布は、教室「糸を紡いでみよう 織ってみよう」などの参加者に配布しています。(山縣紀子)

ひろしま郷土資料館だより 第77号

【編集・発行】

(財)広島市文化財団 広島市郷土資料館
〒734-0015

広島市南区宇品御幸二丁目 6-20
TEL (082) 253-6771 / FAX (082) 253-6772
<http://www.hiroins-net.ne.jp/kyodo/>

【発行年月日】

平成 21 年 (2009) 3 月 31 日



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS